

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）

(実施期間：平成 28～令和 3 年度)

代表機関：筑波大学（総括責任者：永田 恭介）

共同実施機関：産業技術総合研究所、日本アイ・ビー・エム株式会社

取組の概要

「多世代に渡る女性研究者のシームレスエンカレッジモデルの実現」をテーマに 3 機関による協働 WG を組織し、「つくば女性研究者支援協議会」や関係する全国組織とも連携して取組を実施する。

具体的な取組としては、女性研究者の採用や活躍を加速するための 3 つの柱として、①女子学生を対象とした次世代キャリア支援プログラム、②ライフイベント等で研究活動を中断した女性研究者を対象とした研究活動再開支援プログラム、③研究・マネジメント能力等の向上を図る上位層育成プログラムを構築し実施する。同時に柱の取組を支える 3 つの土台として、女性研究者の (A) 環境支援、(B) 意識啓発、(C) 研究力向上を図る。これらの取組により多様な世代の女性研究者の活躍をシームレスにエンカレッジすることにより、「研究学園都市つくば」から産学官の多様な視点に基づく女性研究者支援を牽引し、女性研究者によるイノベーションの創出を目指す。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	実施期間終了後の取組の継続性・発展性
A	b	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

特徴が明確に異なる、国立総合大学、国立研究開発法人、グローバル企業の大規模 3 機関が、それぞれの強みを活かし有機的に連携し、つくば研究学園都市の女性研究者・技術者の活躍を促進した。代表機関の大学院生を研究補助者として共同実施機関の産業技術総合研究所の女性研究者に配置する取組、女性研究者・技術者の復職支援を目指した「リターンシッププログラム」、3 機関の女性研究者・技術者を中心とした異業種交流会の開催、女性研究者・技術者のマネジメント力向上のための「マネジメントインターンシップ」の創設など、特色ある取組を進め、女性研究者・技術者の研究力やマネジメント力の向上、管理職への登用、次世代育成、復帰・復職支援に係る成果を挙げたことは評価できる。また、代表機関の「女性研究者ネットワーク SIRIUS」と共同実施機関の「女性研究者ネットワーク COSMOS」、「ダイバーシティ・サポート・オフィス」を連携させることにより、つくば地域の女性研究者・技術者のためのネットワークを構築したことは評価できる。今後は、代表機関の筑波大学において、女性研究者、特に自然科学系女性研究者の採用を積極的に図り、女性教員の増加を図ることを期待する。

- ・**目標達成度**：連携する 3 機関共に、所期の目標を上回り管理職の女性比率を増加させたことは評価できる。しかしながら、つくば地域を牽引すべき代表機関は、自然科学系の女性研究者採

用比率を30%とする目標を達成できなかった。今後は、実効性の高いポジティブ・アクションを立案し、30%の採用目標を達成することを期待する。

- **取組**：「在宅勤務制度」、「子育て支援プログラム」、復職支援のための「リターンシッププログラム」等を構築するとともに、異業種交流会、マネジメント力向上のための「マネジメントインターンシップ」や「リーダー育成講座」を創設し、多面的に女性研究者・技術者の活躍を推進したことは評価できる。また、3機関がそれぞれ有する「女性研究者ネットワーク SIRIUS」、「女性研究者ネットワーク COSMOS」、「ダイバーシティ・サポート・オフィス」を連携させ、つくば地域の女性研究者・技術者のネットワーク構築を牽引したことは評価できる。
- **取組の成果**：連携する3機関共に、所期の目標を上回り女性研究者・技術者の管理職登用を進めたことは評価できる。また、3機関それぞれが有する女性研究者ネットワークを連携させ、つくば地域における総合的で大規模な女性研究者ネットワークを構築するとともに、異業種交流会を開催することにより35件以上の女性研究者・技術者による共同研究を誕生させたことは評価できる。
- **実施体制**：「ダイバーシティ協働推進ワーキンググループ」を創設し、定期的な意見交換を行うことにより綿密な連携を図った。他機関の取組好事例を共有し相互に導入することにより、新たなプログラムの創設や制度の改善に繋げる連携体制が構築されており評価できる。
- **実施期間終了後の取組の継続性・発展性**：実施期間終了後も「ダイバーシティ協働推進ワーキンググループ」による定期的な意見交換を継続しており、理工系の女性研究者が少ないという共通認識の下、次世代育成に連携して取り組んでいることは評価できる。マイノリティー支援からマジョリティを含む多様な対象の支援に向け、支援のパラダイム・シフトを見据えた今後の視点が提示されており、多様な対象を包含し一体的・包括的な支援の拡充を具体的に図ることを期待する。